

令和3年度 第2回四国森林管理局国有林材供給調整検討委員会【議事概要】

1 日時及び場所

令和3年9月28日（火）10時00分～11時30分

四国森林管理局 3階会議室（ウェブ開催）

2 議事概要

【委員会の検討結果】

原木供給量については、梅雨期が長かったことに加え、8月の長雨の影響で出材が順調とはいえず、原木不足の状況は続いているという意見ではあるが、製材用素材在庫量の推移データでは、例年の水準まで回復しきれていないものの増加傾向は見られている。

さらに、今後は天候が安定すれば出材量も増えてくるとの見方や、年明け頃から原木増産に向けての動きが始まるとの意見も出されている。

原木価格は高値安定で推移しており、年内はこの状況が続くとの見方が大方の意見であり、需給バランスを見極めながら対応することが重要である。

こういった状況を踏まえ、今後については需給の状況に応じて立木販売の公告前倒し等を含めて、対応できうる立木販売の実施を検討していくことが適当。

【主な意見等】

○ 素材生産業

- ・ 第一四半期の高知県内生産状況は前年同月比の108%程度、8月の長雨の影響により一時的に生産量が落ち込んだ事業者が多い。急な増産要請に対応できる事業者は少ない。先行きでは、令和2年度並み又は1割程度増しの生産量を見込む事業者が多い。
- ・ 8月の長雨による出材状況の悪化があること、新型コロナウイルス感染症に係る保育事業への転換が一段落する年明けまでは、原木の集荷量も改善されない状況が続くと思われる。
- ・ 国有林の素材生産請負事業は発注も終了し、出材が行われているが、8月の長雨で少し遅れ気味、9月以降回復に向けて取り組む見通し。

○ 原木市場・共販所

- ・ 原木の供給が少ない。ヒノキは柱や土台適寸材を中心に6・7月に価格急騰。スギも柱適寸、中目材を中心に上昇高止まり。この状況がいつまで続くのか予測は困難。
- ・ 6～8月の販売数量は、高知県森連全体で約8万m³、昨年対比では約7千m³の減少。梅雨の期間が長かったこと、8月の長雨と盆休みが重なり数量の減少につながったのではないかと考えられる。全国的な原木不足が続いているため、高値維持が続きそうであるが、安定した価格とは思えない。高値の反動が不安要素。

- ・ 全体的に入荷量少なく、買い気は相変わらずある状態。価格は高水準で推移。買い気のある状態は続き、年内は高値で推移すると思われる。
- ・ 原木丸太は令和2年度（9月）に比べると数量は減。単価は引き続き高騰中、特にヒノキは高値。先行き不透明だが、年内は価格維持と予想される。

○ 製材工場等

- ・ 原木の調達に苦勞。乾燥機不足がボトルネック。需要は旺盛だが、生産が追いつかず注文を断っている事業者もある。高値の取引が容認され、製品価格は高止まりしている。輸入材は、年内はこの状態が続くとの意見があるが、高値がいつまで続くのかは予測困難。国産材は、年内は横這いまたはピークは過ぎたという意見がある。
- ・ 材不足の状況は改善しつつあるが、量は相変わらず少ない。製品価格は高止まり、ヒノキはKDモルダーで現在14万円。丸太、製品ともに現状のままと予想。
- ・ 原木在庫量が少しずつ減っている。工場の生産量は例年並み。ヒノキ原木価格は過熱気味なので、出材量が増えてくれれば少し落ち着くとみている。値上げが遅れていた取引業者にも通って横並びになり、製品価格は高値で安定している。製品在庫はほぼゼロなので、販売は生産量に左右される。平年の出荷実績に合わせて受注制限をしている。輸入材の代替えで、輸入材の価格が下がれば合わせて下がる。年末頃だと予想している。
- ・ 8月は長雨で原木の流通は少なかった。スギは3m造材が多く4mの調達に苦勞。スギ製品で流通在庫が少ないのは柱と間柱が多いと聞く。価格は別問題として外材製品も市場へ出てきた。年内は現状か。

○ 国有林材の供給調整についての意見

- ・ 年明け頃から原木の増産に向けての動きが始まるので、国有林材の供給に特段の調整をする必要はないものと考える。
- ・ 国有林材の供給調整は、価格下落時のブレーキとしては良いが、高騰時のアクセルの役割は民有林に任せて調整しない方が良い。